

はじめに

地球研平成18年度プレリサーチ (PR) 研究「社会・生態システムの脆弱性とレジリエンス」は本プロジェクトの準備段階としての一年を無事終了した。

平成18年度は多くのプロジェクトメンバーがザンビアへ赴き、農民、大学関係者、政府機関スタッフ等との研究計画の打合せ及び予備調査を行った。現地の住民と政府機関の協力を得ながら、東部州ペタウケ郡の休閑地をプロジェクトの調査地としてお借りすることが出来、土壌分析も開始した。また2名の大学院生が雨期の開始前から南部州の村落に住み着いて、村落での農業生産、労働移動、旱魃対応の詳細な情報収集を開始した。現地踏査に基づく地理情報も整備しつつある。主な協力機関となるザンビア農業研究所 (Zambia Agricultural Research Institute) と地球研による研究協力覚書の締結も平成19年3月に行なわれた。ザンビア中央統計局との家計調査の準備も進んでいる。

2006年はグローバリゼーションを肌で感じた年でもあった。中国、韓国等アジア各国での銅需要増加の影響から、産出国ザンビアの銅景気により為替レートの上昇が続き、平成17年8月に1ドル4,630ZKであったクワチャが平成18年6月には1ドル3,500ZKまで高騰した。このような貿易・投資の拡大やショックがどのように零細農民へ影響を及ぼしているのかも重要な問題である。アフリカにとって近年インド・中国は重要な貿易のパートナーとなりつつある。新しい「アフリカのシルクロード」との見方もある。

本プロジェクトは今年度のPRの段階を終え、平成19年度から5年間の本研究 (FR) をスタートさせる。1-3PRメンバーの方々にはプロジェクトを軌道に乗せるためにご尽力をいただき感謝したい。また地球研の評価委員会、所長、主幹、管理部のスタッフの方々をはじめ、研究部スタッフの方々にこの様な新しいプロジェクトを実現可能にするためにご支援いただいたことに感謝申しあげる。

平成19年3月

総合地球環境学研究所

1- 3PR プロジェクト・リーダー

梅津 千恵子